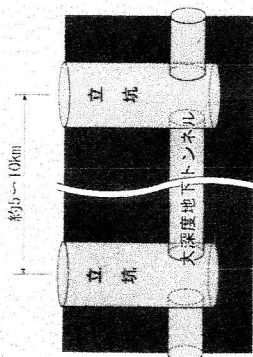


等々力緑地は公園整備計画の対象

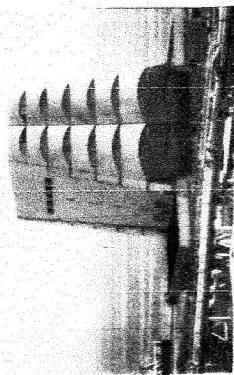
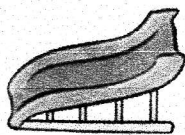
立坑建設には高いハードル



JR東海の「立坑イメージ」



写真①埼玉高速鉄道駅の立坑



写真②川崎臨海部の海底トンネル立坑



みどりの豊かな中原区・等々力緑地

計画発表以来リニア問題に取り組んできた猪股美恵さん（市議員無所属）によると、等々力緑地周辺は川崎市の公園整備計画の範疇にあり、隣接するJXの野球場などもその対象に含まれるということです。猪股さんの調査では、JR東海が立坑などの建築物を建てる場合は、まず、都市計画法の許可条件（①容易に除去できる建築物であること、②公園整備計画に支障があるかどうかを判断する）をクリアすることが前提となります。JR東海はリニア新幹線計画の概要を説明した「環境影響評価方法書」のなかで、立坑のイメージとして埼玉高速鉄道の立坑の写真①を紹介していますが、同書で説明するリニア新幹線の立坑は直径三〇m、深さ四〇メートルの巨大なもので、実際は川崎市臨海部にある海底トンネルの立坑（写真②）くらいの大さになるとみるのが自然です。ですから、簡単に撤去できるようなものにはなりません。また、こうした前提条件をクリアしても市民の意見を聞かなければなりません。こうしたことを踏まえ、猪股さんは「私たちも都市計画法について詳しく知る必要がある」と話している。

新たに高津・宮前区内三か所で環境影響調査

「湧水を調べる」といって・・・

JR東海は昨年十一月下旬、川崎市の「だちはなふれあいの森」（橋特別緑地保全地区）高津区野川四一〇ほか、梶ヶ谷第一公園（高津区梶ヶ谷二一〇）注・法務局近くの桜の名所、水沢特別緑地保全地区（宮前区水沢二六九一一）注・北部市場に隣接）の三か所で湧水調査を行うと通知してきました。市の環境影響評価審議会のリニア計画に対する市長意見の答申で、市民から要望があつたので調査すると、JR東海はその理由を説明しています。トンネル工事は地下水の流れに重大な影響を与えます。現在進行中のリニア山梨実験線の延伸工事でも地下水が大量に流れだし枯渇する自然破壊も起きています。また、昨年夏のJR東海による環境影響調査地点と今回の調査地点を重ね合わせると、現在幅三〇mの範囲で想定されているリニア新幹線の川崎市内のルートも絞り込まれてきたと言えます。

「脱原発社会にリニアは必要か」

相模原で広瀬隆さん講演会とシンポ

二月一〇日午後一時半から

相模原市内にはリニア新幹線の間歇駅がつけられる計画です。また同市内の旧津久井町には車両基地もできる予定です。新駅建設で相模原市は大きな財政負担を迫られます。その相模原市橋本のリレイコさんがみて「脱原発社会にリニア新幹線は必要か」というテーマで講演会とシンポジウムが開催されます。主催は集会以て結成を宣言する「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」です。リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、同相模原連絡会をはじめ、中間駅ができる山梨県甲府市や長野県飯田市、岐阜県中津川市などのリニア計画に疑問を持つ多くのグループがこのネットワークに加わっています。広瀬さんは福島第一原発以前から原発の事故の危険性を警告した科学シヤーティストです。川崎からも数多くの参加をお願いします。